【遠別地域】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●地域の若者たちがつくる農林水商の枠組みを越えた相互連携（継続事業）

（1）水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		
地域 MV における取組の位置付け	【地域の目指す姿】 ○農林水商の相互連携と産業の育成構想 地元水産物の域内消費の拡大、特産品の開発 【主な取組】 ○良質な農水産物の融合による特産品開発の推進 ○地産地消拡充の地場販売枠の設定と町内での販売・提供体制の確立 ○地元学の推進による担い手の育成・確保	取組場所
現状における取組実施の背景	少子高齢化、人口減少に伴う地域の担い手である若者不足が遠別町内の各産業でも顕著に見られ、農林水商の枠組みを越えた相互連携により、地域活性化に向けた取組を実践したいという共通認識のもと、平成２９年に「青年部連携地域活性化実行委員会」が設立され、町内各産業団体主催イベントへの参加や地元産農水産物を使った特産品開発や販売ＰＲのほか、町内社会教育事業と連携した漁業・農業の職業体験プログラムの企画運営事業などを行ってきた。	
取組により期待する効果	○各産業の枠組みを越えた取組による地域活性化策と担い手の育成・確保。 ○地元産物の消費拡大と付加価値の向上。 ※数値目標の設定は現段階では困難。	
（2）取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	・自分たちが子どもの頃に見た大きな花火を今の子どもたちに見せてあげたいという想いのもと、今年で４回目となる花火大会を開催。合わせて道の駅「えんべつ富士見」を会場に「遠別川夏まつり」と銘打ち、子ども盆踊りや縁日、ステージショーなどの各種催しも含めた有観客でのイベントを実施することができた。また、遠方の方でもリアルタイムで花火を堪能して貰えるよう YouTube によるライブ配信にも取り組んだ。 ・事業資金集めのため、町内企業や個人から協賛金を集めて資金確保を行った。 ・神社祭の賑わいを取り戻すべく、地元祭典委員会や町外から来町する露天商と連携協力し、「子ども向けの縁日コーナー」を企画した。 ・卒業式を思い出深いものにしてほしいという想いのもと、「等身大卒業証書パネル（213 ㎝×236 ㎝）」を製作し、地域の小中学校卒業式で記念写真撮影用としてパネルを設置した。 ・今後、高齢者宅の「除雪ボランティア（2 月頃）」や「若者交流会（2 月頃）」等の企画を実施予定。 ・４年ぶりの開催となる「遠別冬まつり（2/4 開催予定）」において、飲食物の物販を実施予定。	
（3）効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	○コロナが５類に引き下げられたことに伴い、各種制限も緩和され、イベント開催を通じた以前のような賑わいと活気を取り戻しつつある。地域のリーダーとなる存在や今後の担い手確保対策の一助となると想定される。 ○異業種間交流により、相互の産業や仕事、人の繋がり等自分が暮らすまちについて認識を深める機会となっており、郷土愛を高める契機となっている。 ○地域での認知度や期待も高まっており、「まち全体の青年部」組織として応援してくれる人・団体等が増えてきた。	
反省点	○他市町村団体との交流、民間企業への視察研修は実施に至っていない。 ○設立当初メンバーから次世代メンバーへと転換期のタイミングを迎えているが世代交代が進まない状況にあり、ノウハウや想いの継承まで現段階では伝えきることが出来ていない。 ○会員数は減少傾向であり、また男性ばかりで女性会員が少ない。（現在６８名中女性は２名）	
（4）取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	○先進地となる他市町村団体や民間企業等との情報交流による外部刺激。 ○継続的に事業を展開するための資金確保。（町内企業等からの協賛金集め、クラウドファンディング等） ○女性会員の加入促進。	
取組の実施に必要なもの	○地域の担い手となる青年層を中心とした人材の確保。 ○他市町村や民間企業とのパイプ。 ○町補助金に頼らない自主財源の確保。	

関連資料

【取組の様子】

・「遠別神社祭縁日出店」の様子（2023 年 7 月 14～15 日）

・「遠別川夏まつり」の様子（2023 年 8 月 12 日開催）

・「等身大卒業証書パネル」の様子（2023 年 3 月 12 日撮影）